

足利市議会議員

いつもありがとうございます。

金子ひろみ通信

[発行元] 〒326-0053 栃木県足利市伊勢町二丁目6-14 TEL&FAX 0284-42-8747
ホームページ kanekohiromi.com E-mail info@kanekohiromi.com

vol.14



ごあいさつ

2020年は、消防本部庁舎の建て替えが始まります。市民の安全・安心を守る拠点ですので、建設に関してはこれまでたくさんの議論をしてきました。斎場・グリーンセンターも建て替えの議論が進んでおり、公共施設等総合管理計画に基づき、多様化する社会・減少する人口・市民のニーズに合わせた公共施設のあり方を考えていく大きな年となりそうです。

昨年は台風19号により、足利市も甚大な被害を受けました。復興支援に力を注ぐとともに、想定外を想定内とする、防災・減災への取り組みに尽力してまいります。

● 議会レポート ●

令和元年 12月定例議会 一般質問

1 泗水学園について

- (1) 市のかかわり
- (2) 『懲罰によらない援助技術の習得』
- (3) 『児童の最善の利益を追求する風土の醸成』
- (4) 『職員採用・人事異動の最適化』
- (5) 改善に向けて

2 教育行政について

- (1) 外国籍児童生徒

3 台風19号について

- (1) 避難所対応
- (2) 土砂災害対応

令和元年 12月定例議会 一般質問 ピックアップ

解説・質問背景

【児童養護施設とは?】児童福祉法に『保護者の居ない児童、虐待されている児童、その他環境上擁護を要する児童を入所させて、これを擁護し、あわせて退所したものに対する相談その他の自立のための援助を行うことを目的とする施設とする』と規定されています。足利には、泗水学園(設置者足利市)と、イースターヴィレッジ(民間)の2施設があり、1つの市に2カ所あるのは珍しいです。

【事件の一連の流れ】平成29年6月に泗水学園の職員の入所児童に対する虐待行為があり、当該行為及び職員の不適切な関わりに対する施設の指導體制に対して、平成30年3月に設置者である足利市に栃木県から勧告が出されました。その後足利市は検証・改善委員会を設置し、同委員会がまとめた建議書が平成31年3月に足利市に提出され、それを受けて足利市は勧告事項改善計画書を平成31年4月に作成し、改善に向けて取り組んでいます。建議書で示された提言には、『懲罰によらない援助技術の習得』『児童の最善の利益を追求する風土の醸成』『職員採用・人事異動の最適化』『地域分散化・小規模化の推進』があります。

1 泗水学園について

(1) 市のかかわり

Q

事件後に改善・検討委員会による建議書が提出されてからも、学園の子どもと接している方々から心配の声があり、私なりに専門家や他市の児童養護施設の協力のもと改善に向けて関わってきたが、足利市が現状を理解しておらず改善の取り組みを社会福祉協議会任せにしていることに問題を感じている。市はもっと積極的に関わるべきだ。市も子どもや現場の職員の声を普段から聞き普段から信頼関係を築くべきではないか。

A

和泉市長:平成30年7月に児童養護の専門家により組織された第三者委員会である「泗水学園検証・改善委員会」を設置し、合計6回にわたり事案の検証を行ってきた。同委員会から提出された建議書の提言事項に基づき、研修の活用、職員が相互研鑽できる環境づくり、児童に合わせた生活援助を実現に取り組んでいる。現在指定管理者制度の下定期的なモニタリングを行っているが、今後直接個々の職員や児童への生の声を聞ける場を検討する必要があると考えている。

(2) 懲罰によらない援助技術の習得

Q 建議書には、施設文化として長く続いていた「悪いことをしたらペナルティを課す」というペナルティ体質の撤廃について書かれているが、その後改善されているか。職員が対応を話し合い情報共有する場があるか。改善計画での取り組みに研修の充実が挙げられているが、研修だけでなく、日常生活の中で子どもと接しながら実践的に学べる環境を整えるべきではないか。

A **福祉部長:**以前は、問題等を起こした児童に反省を促す指導を行っていたが、それを改め、児童の悪い行いではなく良いところを見つけ出し、そこを前向きに評価していく指導に努めている。職員会議やケース会議、勤務交代時の引継ぎなどの中で個々の児童に関する情報を共有・協議している。グループワークやリーダーからの助言や指導を受けながら、実践・経験を重ねることが重要だと考えている。

(3) 児童の最善の利益を追求する風土の醸成

Q 建議書では、『集団生活の秩序を維持することばかりに目を向けるのではなく、児童一人ひとりに今のような支援が必要なのかを吟味し、関係機関とも綿密に連携しながら児童にとって何が最善なのかを絶えず追求する風土の醸成を図りたい』と記載されているが、この指摘に至った背景は何か。改善のためにどう取り組んでいるのか。

A **福祉部長:**職員配置が十分ではなく、児童一人ひとりと関わる時間を十分に確保することが困難な場合があります。そのような中、問題が発生すると、職員がその対応に追われるという状況が続き、児童一人ひとりの支援に影響していたものと考えている。改善策として職員を増員して、児童に関わる時間を増やした。また、地域の小中学校などと情報交換の機会を増やし、一人の児童に対して多角的に支援する体制を作っている。

Q ペナルティ体質の中で職員も育ってきているため、ペナルティを無くしたときにどう対応していくかを職員同士で考えるのは限界があるのではないか。

A **福祉部長:**職員同士頑張っているが、より専門的な人からの意見を聞くことも大切だと思っている。また職員の意識改革もあるので、専門的な方の意見を取り入れていきたい。

(4) 『職員採用・人事異動の最適化』について

Q 建議書で『職員が児童養護の本質を理解しないまま業務に当たるような状況が続く』とあるが、どのような状況だったのか。改善への取り組みはどうしているのか。

A **福祉部長:**職員採用や人事異動の際、児童養護施設業務を経験したことない職員の配置が行なわれており、児童養護の本質まで理解が及ばなかった部分がある。その為、現在は泗水学園枠での職員採用を実施したり、人事異動の際に意欲や適性を持つ職員の配置をするよう努めている。



私の意見

児童養護施設以外にも様々な事業を展開する社会福祉協議会の中で、職員異動が行なわれている。現在の体制では職員のやり甲斐の形成にも影響がある。異動のあり方だけでなく施設のあり方も考えるべき。

(5) 改善に向けて

Q これまでのやり方では改善しきれない。今後市が積極的に関わり、改善に向けた計画を改めて考えるべきだ。また、ケース会議などの協議の場に児童養護の専門家を入れて、日常の生活指導や声掛けのあり方を、ともに考え・学ぶ環境を作っていくべきである。

A **福祉部長:**市は建議書をもとに勧告事項改善計画を作成し、施設運営の改善に努めている。検証は、県による進捗状況調査に加え、市はモニタリング調査を実施している。先進施設への宿泊研修や専門家による講演会なども実施し、スキルアップを図っている。また、ケース会議などに専門家を招くことも検討していきたい。



私の意見

その他、先進施設との連携による長期間の人事交流や、本市の児童養護の考え方など提案いたしました。今後も積極的に、泗水学園の改善に関わっていききたいと思います。

2 教育行政について

(1) 外国籍児童生徒



Q 外国籍を持つ児童生徒は日本の学校に就学できるが、就学は義務ではない。文科省の発表では、外国籍児童の15.8%が不就学にあるとされている。本市は、外国籍児童生徒にどのように就学を促しているか。日本語が不自由な外国人児童への支援はどうしているか。

A **教育長:**就学時検診や入学の案内を、日本語・英語・スペイン語・ポルトガル語・簡単な日本語で送り、不就学の場合は訪問をして就学を促している。日本語が不自由な外国人児童には、市内で拠点校を4校設けているほか、外国人児童生徒専門指導員による巡回指導を行っている。

Q 私が実際に外国人児童生徒と関わってきて、日本語が不自由な外国人の子どもへの支援の不足を感じている。今以上の支援の必要があるのではないか。

A **教育長:**日本語指導のためのガイドブックを作成、学校生活ガイドブックを多言語で作成している。外国後の堪能な教師の人事配置など、県に要望を行っている。保護者への支援も必要である。外国籍の子どもも足利の大切な子どもであるという認識をもって支援を進めていく。



私の意見

外国籍の家庭だと児童扶養手当の受給に特別な手続き・書類がいるなど、日本人と同じ支援を受けるまでのハードルが高く、また仕事に追われ周囲から孤立している家庭も多い。子どもを支援することは、家庭と社会を繋げることにもなる。今後も支援の充実に努めていきたい。

3 台風19号について

(2) 土砂災害対応

Q 台風19号の際の土砂災害の危険性のため避難勧告が出された地域があるが、これまでどのような対応がされたのか。今後どのように対応していくのか。

A **都市建設部長:**急傾斜地の崩壊時に住民の生命に危険がある区域は、栃木県が土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定しており、市内に249カ所ある。台風19号で土砂災害のため避難勧告が出た5カ所のうち、2カ所がこれらの区域に指定されていなかった。全国的にこのような事が起きており、今後の課題。これら5カ所は現在仮復旧工事が完了しており、今後本復旧工事を行う。



写真:仮復旧工事の様子

本復旧工事の内容

- 助戸大橋町…国・県の補助を受けながら、激甚災害の指定を受けた自治体が活用できる「災害関連地域防災がけ崩れ対策事業」を実施。
- 本城一丁目と西宮町…栃木県安息土木事務所が「急傾斜地崩壊対策事業」を実施。
- 田島町と月谷町…栃木県県南環境森林事務所が保安林の安全を目的とした「治山事業」を実施。

台風19号でお亡くなりになった方へ衷心より哀悼の意を表しますとともに、被災された方々へ心よりお見舞い申し上げます。

令和元年台風19号について

●被害状況

人的被害:3名(死亡1名、中等症2名)
住家被害:747件(床上浸水433件、床下浸水271件など)
道路冠水等:271件
その他:425件(土砂崩れ51件、河川被害69件など)
被害総額:88億6,000万円(商工業約70億円、農林業約8億6,600万円、インフラ約5億7,800万円、公共施設1億5,800万円など)

●議会の対応

足利市議会BCP(業務継続計画)に基づき、13日災害対策支援本部を設置、各地の議員が収集した情報を支援本部でまとめ、災害対策本部へと繋ぎました。

11月15日には臨時議会を開催、災害対策や復興支援の補正予算を議決。また、被災者生活支援策として、災害見舞金制度の創設を求める付帯決議をしました。

★実現しました★

この付帯決議により、台風19号被害に対する災害見舞金制度、自動車購入等の補助制度の創設が実現しました。

昭和22年のカスリン台風以来、本市に甚大な被害をもたらした令和元年台風19号は、10月12日夜から13日にかけて関東地方に接近・上陸しました。足利市は、11日午後災害対策庁内連絡会で対応を協議、12日9時災害対策本部を設置し6カ所の自主避難所を開設、最終的には21カ所の避難所が開設され、最も多いときで約1800人が避難しました。14時に一部地域へ警戒レベル3、20時45分には市内全域に避難勧告が発令されました。

水害対策、避難所開設・避難者への対応、情報伝達手段、ハザードマップ、災害ごみの受け入れ、罹災証明書、消防組織などなど、本当に多くの課題が浮き彫りになりました。今回の災害対応に関する課題を洗い出し、被災した地域の実態に関して自治会をはじめ地域の方々からも聞き取りを行い、検証結果をまとめ公表するとともに、具体的な対策を検討していきます。

足利高校・足利女子高校の統合に向けて

●新校設立へ、足利市民会館の土地を提供

足利高校と足利女子高校は、2022年に統合され新校となります。統合時は校舎建て替えのため足利高校の校舎を利用しますが、2024年に現在の足利女子高校の場所に新校舎が完成し、生徒たちは新校舎に移転する予定です。現在の足利女子高校がある土地は栃木県内の高校で一番の狭さであるため、足利市が誇れる素晴らしい高校を作るために、北側の市民会館の土地を提供することが決定しました。市民会館の建て替えの議論は、現在進行中です。



写真:足利女子高校

●統合再編支援議員連盟の設立

足利女子高校と足利高校の新校舎での開校が2024年と迫る中、足利市議会では12月12日、統合再編支援議員連盟を24人全員で設立しました。私は足女卒業者として、連盟の副会長を仰せつかりました。今後は積極的に調査・研究をしながら、素晴らしい新校の創立に向けて積極的に関わっていきます。

●八千草会(足女同窓会)の副会長に

足女卒業時から八千草会(同窓会)のクラス代表理事を務めていましたが、2019年11月の八千草会総会で承認され、同会副会長に就任いたしました。若輩者ではありますが、会の運営・統合新校への関り・同窓会のあり方などしっかりと勉強し、会長をサポートしながら検討してまいります。

中学校への出前授業

足利市議会では、広報広聴活動の取り組みの一環で、議員が講師となり中学校へ出向いての地方自治について授業をする「出前授業」を昨年からは開催しています。中学3年生の公民の時間を1時限いただきまして、議会についての説明をした後、生徒からの質疑応答に答えます。私は、毛野中・協和中・愛宕台中を担当しました。生徒からは、

- なぜ市議会議員になったのか?
- 足利が現在力を入れていることは何か?
- 足利市は財政難なのか?
- ショッピングモールを作れないか?
- 通学路の信号の押しボタンが壊れているけどどうすればいいか?

など、様々な質問ができました。質問に答えながら、私たち自身も勉強になります。最後に議員を身近に感じる事が出来た・市政に興味を持ったという言葉をもらいました。市民が興味を持てば持つほど、良い市になっていくと思います。公民館等での議会報告会の開催や情報発信などと合わせて、今後も議会での広報広聴活動に力を入れていきます。



足利市議会議員 金子ひろみ

[プロフィール] ●昭和54年足利市伊勢町二丁目生まれ ●相生小学校、第三中学校、栃木県立足利女子高校卒業 ●中央大学商学部経営学科卒業 ●スリランカ、ガーナ、ミャンマーでボランティア活動を行う ●青年海外協力隊として南米ボリビアにて、コーヒー栽培普及・収入向上プロジェクトに携わる ●介護施設で勤務、社会福祉士国家試験に合格 ●平成23年4月 足利市議会議員に初当選 ●平成24年に結婚、二児の母 ●平成31年4月 足利市議会議員に3期目当選

〒326-0053 栃木県足利市伊勢町二丁目6-14
TEL&FAX 0284-42-8747
メールアドレス info@kanekohiromi.com
ホームページアドレス kanekohiromi.com
Twitterで @sari_hiromi をフォロー!